

終章

本報告書の作成にあたっては、本学 IR 室を中心とした認証評価チームが、「点検・評価項目」や「評価の視点」に基づいた「自己点検・評価シート」を作成し、その項目を学部・学科や研究科・専攻、あるいは委員会やセンター等の各部門における活動内容をふまえて割り振った。各部門では、その自部門に割り振られた項目が記されたシートに基づいて自己評価を行い、あわせて根拠資料を準備していった。

こうして提出された「自己点検・評価シート」は、全体で A3 版 300 頁を超える大部なものとなった。これらについて、内部質保証推進会議のなかに設けられた副学長を中心とする小委員会が精査し、疑義がある場合は当該部門に追加説明や修正を求めた。こうした作業を経て整えられた「自己点検・評価シート」は内部質保証推進会議において承認され、これに基づき、評価担当学長補佐が報告書の草稿を作成したのである。

この草稿については、各部門に対し、その関係する章について確認を行い、修正・増補が加えられた。そしてこれを、各学部・研究科ならびに諸委員会の代表者等によって構成される大学評議会に諮り、章ごとに担当者を定め、様々な視点から記述内容等の検討を行った。とりわけ、学部長・研究科長においては、その属する学科・専攻に関する記述の妥当性についても確認することとした。またこれにあわせて、認証評価チームが必要となる根拠資料の精査を進め、これを整理した。こうしたいくつもの段階を踏んで作り上げられた最終稿が、内部質保証推進会議に提出され、その承認を得、完成に至ったのである。

本報告書を作成した 2020 年度は、日本のみならず世界が COVID-19 の感染拡大によって大きく影響を受けた年であった。本学においても、その対応のために、多くの人的・物的資源を割く必要があり、そのことは、今次の自己点検・評価作業に大きな遅滞をもたらした。こうした困難のもとにあって、全学的な取り組みによって確認・作成された本報告書は、本学のもつ団結力と底力を象徴するものであると言えるだろう。

今回の第 3 期大学評価を受審するにあたっての諸作業を通して、新たな内部質保証の体制を出発させ、またあわせていくつかの課題をも確認することができた。今後は、この新体制のもと、発見された諸課題を解決し、PDCA サイクルをふまえた改善・向上によって、本学における教育研究のさらなる展開を図っていきたいと考えるものである。